

【教育目標 夢中になる とともに創る】



# きらきら



新潟市立沼垂幼稚園  
園だより  
令和7年1月30日発行

## 自立と協同性に向かう

園長 青木博子

年中組のAさんは、たこ焼き屋さんをしていました。やがて「配達する車がいる」と言っ  
て、段ボールカッターで段ボールを切ったり、複数の段ボールを組み合わせたりして、  
配達する車を作りました。実際に乗ることができて、運転席にはハンドルもついています。  
たこ焼きを積んでいます。それを見ていた二人の子どもが、面白そうだと思い、それぞれ  
で、Aさんの車をモデルに、たこ焼きを載せた車を作りました。段ボールカッターで段ボ  
ールを切り、ガムテープでつなぎ、実際に乗れる車です。Aさんのたこ焼き屋さんの配達  
車はその後、子ども食堂の車になりました。

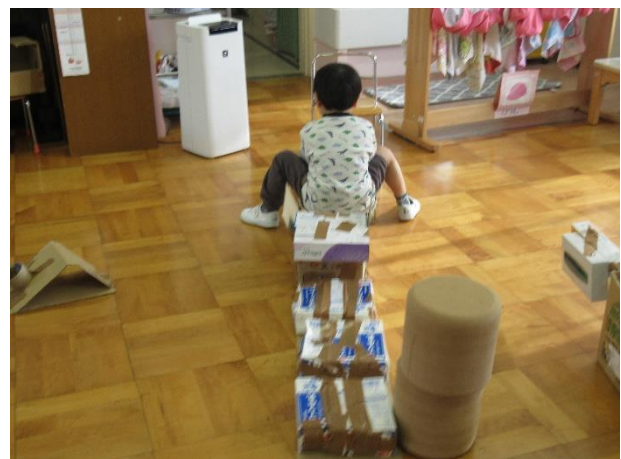
次の日、Aさんは「船をつくる！」と言いました。たこ焼き屋さんの配達車が船に変身  
します。そのうち、担任とBさんが「乗りたい！」と言いました。Aさんは運転席の後ろ  
に椅子（座席）を作ることにしました。牛乳パックを3つ×2段重ねて直方体の椅子を2  
つ作ります。後ろに2つ座席ができました。

BさんとCさんがやってきて、椅子に座ってみると、椅子はへこんでしまいます。する  
とBさんが、椅子になっている牛乳パックの中を覗き込んで言いました「あ！新聞が足り  
ないからだ！」。そして、その牛乳パックの中に、丸めた新聞紙を入れ始めました。そこへ、  
Cさんもやってきて、二人は楽しそうに大好きなポケモンの話をしながら、牛乳パックに  
新聞紙を詰めていきました。

船の椅子が完成して三人は船に乗ります。運転士のAさんが船を出発進行しました。と  
ころが、船はぴくりとも動きません。Aさんが足の動力で力いっぱいこぐと、運転席と後  
ろの座席のところで、ガムテープが切れてしまい、後ろの二人は残されたまま、運転士だ  
けが進んでしまいました。するとBさんは、ガムテープをもってきて、Aさんと一緒に、  
前の運転席と後ろの座席が切れて離れないように、何重にもガムテープを貼り付けました。

「よし！」と、また三人で乗ると、やっぱり船は前と後ろとで切れて離れてしまいます。  
そこでもう一度貼り付けます。「よし！」ともう一度乗りますが、出発するとまた、船が途  
中で切れて離れてしまいました。さらにもう一度貼り付けると、Bさんは自分の遊びへ戻  
っていきました。

そしてAさんは、一人で船に乗り、港へ（車庫でしょうか）向かって出発しました。



たこ焼き屋の配達車が、子ども食堂の車になり、船になる。子どものイメージは豊かで日々、変化していきました。それが面白いと私は思います。さらに、描いたイメージに必要なものや周りの環境を自分で考えて作り変えていったのです。子どもの発想の発展性と次々に創る想像力には本当に驚かされます。また、「船に乗りたい」という友達の気持ちを受け止めるとともに、自分の船が認められたことに喜びを感じて、椅子を作り、船に乗せてあげようとしています。このようにして「主体的に車や船をつくる活動を楽しむ中で、自分なりに考えたり工夫したりしながらやり遂げる達成感を味わい、自分の力で楽しめるようになっていく、自立心」が育まれていくのです。

さて、船に乗せてもらった二人は、椅子がへこんでしまったため、どうにかしたいという思いが生まれます。そして、過去の経験から、「牛乳パックの中に新聞紙を入れると強度が高まる」ことを使って、つぶれない椅子を作ろうとしました。二人は言葉で伝え合いながら、強度を高める工夫をします。大好きなキャラクターの話しながら、微笑みながら互いに安心して活動しています。そこには、同じ目的に向かって、友達と言葉で伝え合いながら、工夫し、協力してやり遂げようとしている「協同性」に向かう姿が育まれ始めていると言えます。この「協同性」は、まず、友達と一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わうことが大切です。その上で、やがて、困難や葛藤を乗り越え、自分や友達と折り合いをつけて、共通の目的の実現に向かうようになるのです。



感染症が蔓延したり、情報機器が大きく普及したりと、ここ数年で社会は大きく変わり、私たちが経験したことのないものとなりました。激動の時代を生きる子どもたちには、自分の力で考え試行錯誤してやり遂げる力と、周りの人たちと協働する力が、これまで以上に求められると思っています。本園の子どもたちには、この力が確実に育まれています。そのために私たちは、常に子どもの思いを捉え続けることを大切にしています。